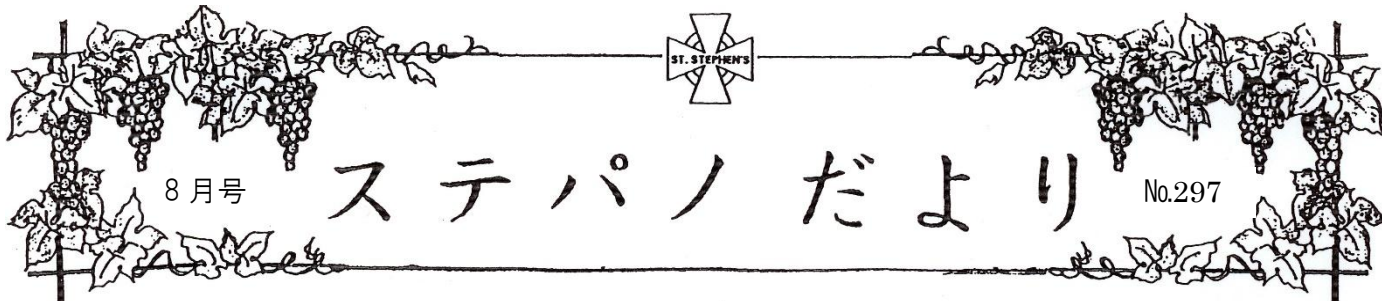




8月号

ステパノだより

No.297

「モモ」

校長 上戸 基夫

お恥ずかしい話ですが、私は本をよく読む人間ではありません。どちらかというと、読まない人間です。しかし最近、「読んでおけばよかった」と感じるものが多くなりました。

読む癖がないと、なかなか本を手にとることはありません。それでも最近、手に取った一冊があります。ミヒヤエル・エンデ作の『モモ』です。教育者であれば、学生時代に一度は手に取る本だと言われますし、その道を志さなくとも、名作として知られている作品です。

読みながら驚いたことがあります。それは、今の時代に通じる言葉があまりにも多いということです。日本語版は一九七六年に刊行された作品ですが、まるで現代の私たちの姿を描いているかのよう感じました。

その中で、特に心に残った場面があります。第十三章「むこうでは一日、ここでは一年」という章です。章の後半で子どもたちの遊びについて書かれている場面です。そこでは、子どもたちは自分で遊びを工夫することを許されません。遊びを決めるのは大人であり、その遊びも、何か役に立つことを覚えさせるためのものばかりです。そして子どもたちは、少しずつ「楽しいと思うこと」「夢中になること」「夢見ること」を忘れていくのです。

そして、「好きなようにしていい」と言われても、何をしていいのかわからない子どもたちは、自由な時間を与えられても、自分で考え、自分で選び、自分で遊び出すことができない。残っているのは、ほがらかにしゃべり声ではなく、いらだちを含んだ、とげとげしい「さわぎ」でした。

近頃、子どもたちの「想像力の欠如」が話題になることがあります。ですが、子どもたちは本当に想像力を失っているのでしょうか。それとも、想像するための時間を、私たち大人が少しずつ奪っているのでしょうか。

『モモ』には、「時間どろぼう」と呼ばれる灰色の男たちが登場します。彼らは、人々に「時間を節約しなさい」「無駄な時間をなくしなさい」と語りかけます。一見すると、それは効率的で、正しいことのように聞こえます。しかし人々は、時間を節約しているつもりで、いつの間にか大切な時間そのものを失っていきます。ゆっくり話す時間、人の話を聞く時間、空を見上げる時間、考え込む時間、何にもならないように見えるけれど心を豊かにする時間が、少しずつ失われていきます。

これは、物語の中だけの話ではないように感じます。少し大げさかもしれませんが、私たち大人は、子どもたちのために思っている：と答え、先に答えを用意します。失敗しないように道を整え、時間を無駄にしないよう予定を詰めます。困らないように、困らないように：先回りして声をかけます。

それらは、社会のスピードに合わせなければいけないと、子どもを大切に思う気持ちから出ていることが多いのだと思います。

しかし、その「思い」が行き過ぎると、子どもたちは自分で考える前に、指示を待つようになります。どうしたらよいかと自分で想像する前に、誰かが決めてくれることに慣れていきます。そして、「好きなようにしていい」と言われても、何をしてよいのかわからなくなってしまうのです。

「想像力」と聞くと、特別な物語を考えたり、絵を描いたり、夢のような世界を思い浮かべたりする力を思い浮かべるかもしれませんが、もちろん、それ想像力の一つです。しかし、子どもたちに本当に育ってほしい「想像力」は、もっと身近なものではないでしょうか。この言葉は、相手をどんな気持ちにするだろうか。これをしたら、この後どんなことが起こるだろうか。自分の思いだけを通すことで、他の人はどうなるだろうか。目の前に見えていないところまで思い巡らす力。それが、子どもたちに育ってほしい想像力なのだと思います。

すぐに正解を求めるだけではなく、「あなたは どう思う」「どうしたらよいと思う」「相手はどう感じると思う」と問いかけていく。そして、答えがすぐに返ってこなくても、待つこと。これが大切です。

子どもたちには、「想像力」を持って生きる人になってほしいと願っています。

教職員座談会

高橋 れみ 先生（今年度奉職）

晝間 翔登 先生（昨年度奉職）

佐々木 心 先生（今年度復職）

【ステパノに奉職した経緯は？】

晝間—私は数年間他の学校で勤めていました。転職するにあたって、海に近い湘南の地を中心に選びました。湘南の地に縁があるわけではありませんが、湘南は気候もいいし、環境もいいのでスローライフができるかなと思いました。

高橋—湘南エリアにはいくつも学校があるのに、なぜステパノを選んだのですか？

晝間—ステパノが掲げているインクルーシブ教育に興味を持ったからです。前任校でも特性がある子はいました。そういう子に対して、自分としてどう対応していくべきか勉強してみたいと考えました。

佐々木—高橋先生はなぜステパノを選んだのですか？

高橋—私は昨年の教育実習で初めてステパノ学園を知りました。大学では特別支援教育のゼミに所属していて、ステパノが特別支援に関連している学校と聞いて興味を持ちました。実は、近藤先生がゼミの先輩で、近藤先生からもステ

パノがとても素敵な学校だと聞いていたので、実習に行くのがとても楽しみでした。

高橋—子ども達も明るく、先生方もとても優しい。日本中にこういう学校が増えればいいのになあと思う、実習の最終日に校長先生に思い切った「働かせてください！」ってお願いしちゃいました。

佐々木—実は、私も教育実習からそのままステパノに奉職しました。大学にはキリスト教学校での実習を希望して、紹介された学校がステパノでした。実習終了後に、当時の学園長先生から一緒に働かないかとお誘いいただきましたが、母校に帰りたいとも考えていたため決断を迷っていました。しかし、再度学園長先生からお誘いいただき、主の導きを感じて、奉職させていただくことにしました。

晝間 翔登先生



高橋 れみ先生



【ステパノのイメージは？】

高橋—どの先生も子ども全員を知っているのがとてもすごいと思いました。少人数だからできるのかもしれませんが、子どもと先生の距離がとても近いのだと思います。

晝間—私も全く話したことがない子から話しかけられたのにはびっくりしました。

佐々木—ステパノは、いい意味で型にはまっていないと思います。固定概念を打ち砕いてくれる学校です。そうじゃなくてもいいんだ、というきっかけを子ども達が与えてくれるので、常に私たちも勉強できています。

高橋—一方で、私は教育実習の時、型がない怖さもありました。自分がやっていることが合っているのかどうか不安でした。子ども達がのびのびと生活しているのを見て、自分が型をはめてしまっているのかどうか不安でした。

佐々木—私も今も昔もステパノで教える恐れを実感しています。実習中は正解を求めすぎてしまうことへの怖さがありました。現在は子ども達のキャンパスが真っ白すぎるので、それに対して果たして自分が本当に干渉しているのかどうかという恐れを常に感じています。

晝間—私は高橋れみ先生の教育実習中、西村先生と一緒に指導教官として携わらせていただきましたが、最近高橋先生は子ども達との関わり方が変わってきたと感じます。

高橋—それはとても嬉しいです。実習中も含めて、いろいろな先生方の動きや子ども達の表情

からたくさんを学ばせていただきました。そして、現在はそれらのたくさんを経験を踏まえて、自分だけの型を一生懸命に見つけているところです。

佐々木—ステパノも正解があるわけじゃないと思います。れみ先生が今一番新しい大学での学びを経験しているので、自信を持ってそれをステパノでの教育活動の中で活かしてほしいです。

晝間—佐々木先生の実習中の思い出はありますか？

佐々木—私の指導教員は咲間先生でした。咲間先生は本当に威厳のある方でした。でも、勇気を出して素直な気持ちを伝えた時、咲間先生の本当の思いを学びました。それは子ども達も一緒だと思います。咲間先生は厳しい先生ですが、そのうらにある誠実さや子ども達が好きという思いに溢れているので、子ども達もついてくるのだと思います。沢山のことを咲間先生から学ばせていただきました。私もそういう先生になりたいと思っています。

佐々木 心先生



【これからのステパノについて】

佐々木—私はこれからもつながりを大切にしていきたいと思っています。子ども達と先生たちとのつながりはとても貴重です。そのつながりがあるからステパノには卒業生がたくさん来てくれるのだと思います。卒業生が親世代になってもステパノが帰ってこられる場所であってほしいと思っています。

高橋—自分自身があまり母校に帰ったことがなかったのですが、これだけ卒業生が来てくれるステパノが本当にすごいと思います。子ども達が学校が好きなんだと感じます。

佐々木—ステパノは見た目だけでいいことをしている学校ではない。真に素敵な教育を行っている学校なんだと思います。

高橋—自分もあんな風に卒業生とたくさん話したいなと思っています。

晝間—私は、これからもいろいろな人にステパノを知ってもらいたいと思っています。ステパノのいいところをどんどん発信して、ステパノを盛り上げていきたいです。

佐々木—私もそう思います。世間はいろいろと変化をしていきますが、ステパノの理念は守っていききたいです。先生方がそういう信念を持って楽しく教育活動を行っていけば、きっとステパノの良さはどんどん広まっていくと信じています。

STEPHEN'S NEWS

《紹介》

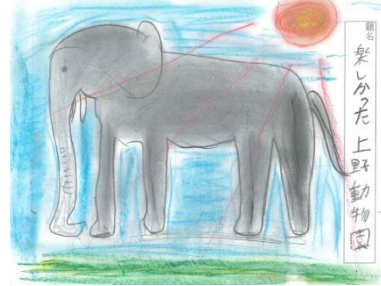
○七月七日（火）放送のNHK Eテレ『知恵泉』という番組で、本校の創立者・澤田美喜先生が紹介されました。

「NHK 番組紹介ホームページより」
アメリカ兵と日本人女性の間に生まれた孤児たちを救った「エリザベス・サンダース・ホーム」創設者、澤田美喜。何不自由なく育ったお嬢様は大スター、ジョセフィン・ベーカーとの出会いで価値観が一変する。財閥解体の逆境の中、私財を投じて設立したホーム。だがそこにGHQから介入が…司令部に乗り込み放った一言とは。独立後の日本社会から向けられた差別や偏見。不屈の信念で子どもたちに与えた「立ち上がる力」とは。

小学校

【春の遠足】

今年の小学校の春の遠足は、低学年は平塚総合公園、高学年は上野公園に行きました。六年生は「澤田美喜先生」のことを学ぶために、旧岩崎邸庭園にも訪問し、ガイドの方からいろいろなお話を伺いました。



ちやよつてきたからとてもあせった。そのとき赤田先生がたすけてくれてあんしんしました。うさぎを赤田先生がわたしのひざにのせてくれたけど、うさぎのつめにひっつかかれてこわかったです。

ちようどおながへつたときにおべんとうの時間になったから手をあらっておべんとうを食べました。おべんとうのからあげをたべようとしたとき、ぜんぜんあつたまつてなくてたべられなかったです。おべんとうをたべたあとにみんなでおにごっこをしました。

小三 I・N

きのう、えんそくにきました。ひらつかそうごうこうえんにきました。ローラーすべりだいをしました。スピードがジェットコースターみたいでした。おりるときころびそうになりました。

てをおわんにしてひよこをのせました。そのとき、てがいたかったです。

おべんとうはおにぎりとはんぺんチーズでした。おいしかったです。おやつはラムネあじのガムとキャラメルでした。

えんそくはたのしかったです。

小三 M・K

きのう、ふれあいどうぶつえんで、ひつじがかわいかった。モフモフだった。やぎがこわかった。やぎはわたしが入ったらめちやく

五月十三日、上野動物園に行きました。見られてうれしかった動物は、ベニジュケイとヘビクイワシとハシビロコウです。ハシビロコウが好きな理由は、不動のハンターだからです。目がぎよろりとしてかつこよかったです。すてきな一日になってうれしかったです。また行きたいです。

小四 T・S

今日は、遠足に行きました。場所は、旧岩崎邸と上野動物園です。行きの電車の中で気持ち悪くなりました。少し休んだら良くなりました。河野先生と和田先生と一緒にいられました。

元気になったぼくは、旧岩崎邸に行きました。ガイドさんが岩崎邸のことや澤田美喜先生のことを沢山教えてくれました。ぼくが一

番おどろいたのは、澤田美喜先生が最初は仏教徒だったということです。他にもいっぱい面白いお話がありました。もっとお話を聞きたかったです。

次に、上野動物園に行きました。キリンや北極グマや手長ザルなどを見ました。どの動物もかわいかったです。とつてもとつても楽しかったです。遠足はやっぱり楽しいです。

小六 E・Y

【キャンプ】



低学年は学校で一泊二日の「森のおとまり」、高学年は「愛川ふれあいの村」で二泊三日のキャンプを行いました。昨年より実施時期をずらしたことで、厳しい暑さに悩まされることも少なく充実したキャンプとなりました。

先しゅうの金曜日、学校で森のおとまりをしました。一年生から三年生まで先生と一しよに一日とまりました。

きらきらドームづくりがたのしかったです。白のきらきらとかいがらを入れました。

あんまりねれなかったので、らい年はたくさんねます。

小二 A・M

先しゅうの金曜日、学校で森のおとまりをしました。一年生から三年生までとまりました。

ぜんぶたのしかったです。とくに、しゃぼんだまが大きすぎてびっくりしました。またやりたいです。

小二 N・Y

一日目の野外すいじでカレーライスを作りました。ぼくは、火おこしをしました。火はなかなかつかなくて大変でした。

カレーのざいりようはお友だちがつくってくれました。みんなが作ったカレーライスはとてもおいしかったです。また食べたいです。

小四 I・T

ぼくは、六月十日〜十二日にキャンプに行きました。愛川ふれあいの村に行きました。

四、五、六年生と先生とバスで行きました。野外すいじをやりました。ぼくはフルーツポンチを作りました。ももを切りました。フルーツポンチを皿に入れるのが大変でした。とてもおいしかったです。おかわりもしました。

小五 A・S

キャンプで一番楽しかったのはダムの放流です。すごく迫力があって楽しかったのところがと怖かったです。

キャンプで一番頑張ったことは班長です。

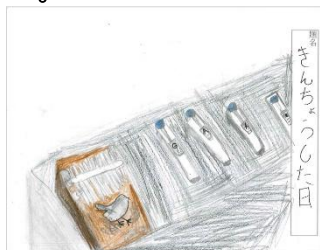
班員を並べたりキャンプファイヤーで火をつけたりするのが大変でした。これからの学校生活で礼拝の時に下級生を並べせたりするのに活かせそうだなと思いました。

キャンプを通して色々なことを学びました。これからの学校生活にキャンプで学んだたくさんさんのことを生かしていきたいです。

小六 S・N

【音楽会】

今年からリハーサルを実施したので、小学生も中学生の音楽を聴くことができました。自分たちも将来あんな風にすてきに歌えるのかなあとつぶやいていた子もいました。



二〇二六年六月二十五日の音楽会で心にとったことは、お客さんによるこんでもらえたことです。

私たち四年生は、「あたらしいこのおきて」を歌い、「エーデルワイス」は歌とえんそうをしました。

たくさんのお客さんが目の前にいたので、間ちがえないか不安でしたが、一生けん命練習をしたので、お客さんによるこんでもらえたことがうれしかったです。

小四 S・R

わたしは、六月の音楽会を海に見えるホールでやりました。ゆいちゃんと司会をやったきんちようはしなかったけど、ゆいちゃんからちゃんとやっていたとおしえてもらえてありがたかったです。マイクで話すのが二回目、いがいと楽しかったです。また中三になったら音楽会の司会をやりたいです。

小五 K・Y

音楽会がぶじにおわってよかったです。めっちゃきんちようしました。でもおわったあとの達成感がありうれしかったです。きんちようする行事の一つがおわってホッとししました。

小六 M・K

【春の遠足】

今年の春の遠足は、石垣山一夜城歴史公園に行きました。山道は大変でしたが、帰りには温泉にも立ち寄り、大満足の遠足となりました。



今日、春の遠足に行きました。まず、石垣山一夜城歴史公園に行きました。山道をのぼるとき、急な階段もあり大変でしたが、着いたときに良い景色が見られて最高でした。次に、万葉の湯に行きました。露天風呂がすごく気持ちよかったです。お風呂に入りました。帰りの電車の中でねむってしまいました。でも、楽しい遠足になりました。

今度は家族でも行ってみたいと思いました。

中一 S・M

今日は待ちに待った春の遠足でした。中学校全体で出発し、まずは最初の目的地である石垣山一夜城へ入生田駅から歩いて向かいまいった。爽やかな春の風が心地よく吹き抜ける中、班のメンバーと色々な話をしながら楽しく進みました。歴史の授業で習った豊臣秀吉の小田原攻めの舞台を実際にこの目で確かめるため、周囲の豊かな自然を眺めながら一

歩一歩確実に進んでいきました。目的地に着すると、目の前には立派な石垣の遺構が広がっていました。わずかに一晩で城を作ったようにみせたという秀吉の驚くべき作戦に思いを馳せながら、歴史のある城跡の敷地をゆっくりと眺めました。展望台からは小田原の街並みや青くて広い海が一望でき、みんなでの素晴らしい絶景を共有できたことがとても嬉しかったです。また、広場でみんなと一緒に食べたお弁当は、いつもより何倍も美味しく感じられました。その後、岐路の途中にはみんなが楽しみにしていた万葉の湯に立ち寄りました。とても大きくきれいなお風呂に浸かると、今日楽しかった出来事が頭を駆け巡りました。また、学校の教室とは違うリラックサした特別な空間の中で、他学年の生徒とも自然に笑顔で言葉を交わすことができました。心の中までリフレッシュされて、中学校全体の一体感がより一層深まったよう気がします。今回の春の遠足は、中学生みんなと一緒にしっかりと歩いて目的地を目指し、地域の貴重な歴史や素晴らしい温泉の文化に触れる大変良い機会となりました。最高学年である三年生の先輩方の頼もしい姿を見習いながら、私も中学二年生として後輩を引っ張り、これからの学校生活を大切に過ごしていきたいです。みんなの絆が大きく深まった、とても充実した思い出に残る最高の一日になりました。本当に楽しかったです。

中二 S・R

【キャンプ】

今年のキャンプは、昨年と同様に、箱根の里で行いました。今年は中間試験が終わってすぐのキャンプで準備も大変でしたが、みんな協力し、充実したキャンプになりました。



二日目のキャンプをしました。弁当とかサラダを食べました。弁当が終わったらそうじをしました。中学校に帰ってふりかえりをしました。中学三年生のふりかえりを聞きました。中三の先ばいがないくなるのはさびしいけど、僕は中三の先ばいとキャンプができて嬉しかったです。来年もキャンプに行くのが楽しみです。

中一 Y・T

二日間を振り返って思ったことは、大変だったけど楽しかったということです。一番楽しかったのは、野外炊事です。なぜかと言うと、みんな協力してるといふ実感があつたからです。他の事も協力してるとは思いましたが、一番協力していると思つたのは野外炊事です。今の中三みたいになりたいなと思います。

中一 Y・S

バスでバスレクをして、箱根の里に着いて、ハイキングやクラフト、野外炊事をしてカレーやサラダなどを食べました。風呂に入りました。

クラフトでは、木のストラップを作りました。楽しかったですが、つかれました。ステパノとはまた違った自然でした。あと、部屋の窓に虫がいっぱいいていました。特に一番楽しかったのはクラフトでした。あんなザラザラな木片が白いやすりでツルツルになるのは不思議でした。

中二 N・N

今日、みんなで夕飯作って、食べて、クラフト作って、みんなで笑った時が一番楽しかった。R君が飯田チェックで一発合格したらしい。野外炊事のフルーツポンチの係の仕事もうまくいった。うちの班(五班)が一番はやく準備できた。なんかいい気分だった。自分が支える立場だったらぜったい指示なんて無理なんじゃないかと思った。

中二 O・Y

班長をしてみてとても大変だったけれど、たくさん気付くことができました。みんなの楽しんでいる顔を見るとすごく元気づけられました。咲間先生はキャンプを休んでしまつてとても悲しかったけれど、その分みんなをまとめられたと思います。

バスに乗る時は生徒全員が「よろしく願いします」と言っていました。あたりまえにみえると思うけど大きい声で言うのは難しいことだと思いました。

クラフト体験などをしました。キーホルダーを作りました。そのキーホルダーをリュックサックにつけています。キャンプはとても楽しかった。

中三 K・N

【音楽会】

今年はいにくの雨の中での音楽会となりました。しかしながら、その雨がまた一段と子ども達の歌声を引き立ててくれていたように感じます。

今日は音楽会でした。とても楽しかったです。歌うたびに「ハナミズキっていい曲だなあ」と思っていたので感動しました。中三の曲で少しうるってきました。いや、少しではないかもです。小学生のころからお世話になっていた先輩も今年で最後なのかと思うとかないです。これからは先輩との時間も大切にしようと思いました。

中二 Y・K

今日の三年生、信じらんないくらいすごかった、と言うかすごいという一言では片付け

らんないかんじでした。とにかくグオツてきました。楽譜持っていないのもすごい。さすが三年って感じで、全部すごかったと思う。

中二 T・J

今日は音楽会本番でした。しつかり練習したことを発揮することができ、後悔はありませんでした。お母さんからも「良かったよ。」ってほめてもらいました。来年もしつかりしたいです。

中二 T・T

今日は音楽会がありました。まず、二回のハンドベル演奏を行い、その後は先輩の発表を聴いて、最終的に中三の発表の時が来て、合唱に臨みました。

少々の綻びがあったかもしれませんが、一杯の演奏を行えてとても良かったです。

中三 H・N





桜から紫陽花、そして向日葵へと咲く花が
移ろうように、一学期はあっという間に過ぎ
去った感があります。

イベントの多いステパノ学園では、一学期
の間に春の遠足、森のおとまりやキャンプ、
音楽会がありました。なかでも子どもたち、
先生方だけで一夜を過ごす森のおとまりやキ
ャンプは子どもたちにとっては非日常で、何
日も前からドキドキワクワクしていた子ども多
かったのではないのでしょうか。親にとっても
子のいない夜は感慨深いものがあつたかと思
います。先生方はこの日のために子どもたち
の喜びそうな企画をいろいろ考えてくださり、

この場を借りて感謝申し上げます。

自分たちで料理をし、クラスメイトらと夜
を明かす貴重な経験をした子どもたちは、疲
れと達成感をごちゃ混ぜにしたような笑顔で
帰ってきて、親としては子の成長を感じるこ
とができたのではないのでしょうか。学年が上
がるにつれ役割も増え、今までは上の学年の
子らに頼ることの多かったわが子も、すこし
は下の学年の子らのお手本になっていること
を願うばかりです。

ステパノ学園では道徳の授業の代わりに
聖書を学ぶ時間がありますね。そのほかにも
毎朝礼拝を行い食前の祈りをし、神様の御言
葉が身近にある環境です。子が授業で覚えて
きた、私にとっては聞き慣れない聖句につい
て家で話し合う時間はとても有意義で、あり
がたい教えをかみ砕いて日常生活におとし込
み、実践していく作業をこれからも続け、子
とともに成長していきたいと思っています。

いま、夏休みを目前にしてこの原稿を作成
しています。長い夏休みをどう乗り切ろうか
と戦々恐々としておりますが、子にも料理の
支度を手伝ってもらったり、ありがたい教え
を子と共有したりしながら、発行時、親子共
に心穏やかに二学期を迎えられていることを
願っています。

【編集後記】

子ども達のご家庭でどのような夏休みを過
ごしましたか？これから二学期が始まります。
二学期はステパノまつり、運動会、修学旅行、
秋の遠足、祝会・・・学校行事が目白押し
です。子ども達のたくさんの声をお届けした
いと思います。

代表者 校長 上戸 基夫
発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校
ステパノだより編集委員会

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868
TEL 0463-611-1298
FAX 0463-611-9739

<https://stephen-oiso.ed.jp>

二〇二六年八月二十六日（水）発行第297号